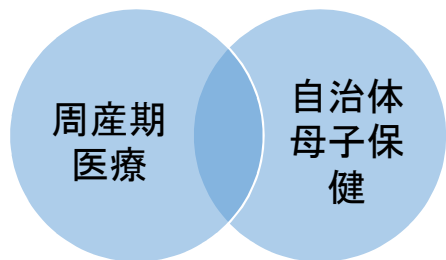


# 平成28年度 周産期等の女性にやさしい災害対策事業

徳島県西部総合県民局  
美馬保健所

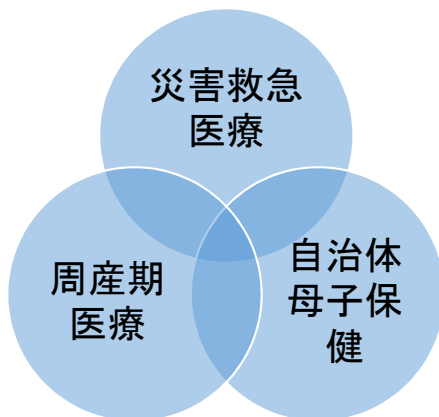
災害時要支援者である周産期等の女性に対する適切な支援が可能になるよう、災害に関する産科医師や助産師等をはじめとする医療保健関係者等への研修や、後方支援の産科医療機関での受入れ訓練など、災害医療を担う人材育成や避難所等の環境整備を図る。

平時の美馬管内の周産期体制



つるぎ町立半田病院等との連携で円満な体制

災害時の美馬管内の周産期体制



考えられる課題

- ・患者の増加  
管外からの患者受け入れ  
(徳島県東部圏域・南部圏域及び県外等)
- ・重症患者の増加
- ・医療施設の不足
- ・医療従事者の不足
- ・関係機関の連携の不安
- ・災害情報や地域と医療施設相互の情報の伝達不備
- ・状況をまとめ情報を集約するリーダーの必要性
- ・避難所等における女性や子供に配慮した環境整備

災害発生時

対策

- ①医療機関の連携・・・県立三好病院、吉野川医療センター、徳島大学病院  
県境に近い、四国中央病院等
- ②医療従事者の連携・・・徳島県産婦人科医会、徳島県助産師会等
- ③地域の連携・・・医師会、関係市町村(防災担当・保健師)、消防、自主防災会等
- ④災害時コーディネーターの役割の明確化  
(圏域チーフコーディネーター、圏域サブコーディネーター)  
○保健衛生コーディネーター ○介護福祉コーディネーター  
○医療コーディネーター ○業務コーディネーター

今年度の計画

- ①第1回研修会の開催 7月30日(土)
  - ・会場:つるぎ町立半田病院にて
  - ・関係者の共通理解をうながす
  - ・災害時を想定した演習
  - ・災害時の関係機関毎の課題の抽出、対策作成
- ②第2回研修会の開催 11月頃
  - ・会場:つるぎ町立半田病院にて
  - ・課題に対する各関係機関の取り組み等協議
- ③災害時コーディネーター全体会議の開催
  - ・熊本地震の災害支援等を参考に具体的な協議
- ④管内保健師連絡会の開催 7月7日(木)・29年1月
  - ・熊本地震災害支援活動経験から管内県市町保健師の災害対応について協議

西総第15293号  
平成28年6月17日

各 位

徳島県西部総合県民局長  
(公印省略)

平成28年度 周産期等の女性にやさしい災害対策研修会の開催について (通知)

日頃は、保健行政の推進に御協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、美馬保健所では、災害時要支援者である周産期等の女性に対する適切な支援が可能になるよう、災害に関する産科医師や助産師等をはじめとする医療保健関係者等への研修や、後方支援の産科医療機関での受入れ訓練など、災害医療を担う人材育成や避難所等の環境整備を図っております。

そこで、今回は、熊本地震の支援活動の経験も踏まえ、次のとおり研修会を開催いたします。

つきましては、お忙しいところ恐れ入りますが、関係職員の出席についてご配慮いただきますようお願いいたします。

なお、準備の都合がありますので、出席を希望される場合は、7月15日(金)までに、別紙様式によりファクシミリ又は電話にてご連絡下さい。

- 1 日時  
平成28年7月30日(土) 午後2時から午後5時まで
- 2 場所  
つるぎ町立半田病院 3階 大会議室  
(〒779-4401 徳島県美馬郡つるぎ町半田字中藪234-1)
- 3 内容
  - (1) 講演  
演題：「災害時に母児を守るため、私たちができること」  
講師：国立保健医療科学院生涯健康研究部  
主任研究官 産婦人科医師 吉田穂波 先生
  - (2) 体験発表  
熊本地震支援活動を体験して思うこと  
発表者：つるぎ町立半田病院 内科医長 河野誠也 先生  
美馬市保健師 主 幹 佐藤里美 氏  
美馬保健所保健師 係 長 三ツ川 恵美子
  - (3) シミュレーション演習
  - (4) 振り返り
  - (5) 質疑応答
- 4 対象者  
助産師・看護師・市町保健師・医師会・歯科医師会・薬局薬剤師・医療機関・  
歯科診療所・消防署・訪問看護事業所・地域包括支援センター・  
市町社会福祉協議会・学校関係、西部総合県民局職員・その他

担当 徳島県西部総合県民局保健福祉環境部(美馬保健所)  
医療企画担当 藤本 電話：0883-52-1017

# 新昭和南海地震から学ぶ防災減災対策事業

【平成28年度当初予算額 4,595千円】

## 南海トラフ巨大地震をはじめとする自然災害を迎え撃つ防災減災対策の推進

### ■ 昭和南海地震（昭和21年12月21日4時19分頃）

- ・マグニチュード：8.0
- ・死者・行方不明者：164人
- ・住家流出：411棟
- ・ // 全壊：433棟  
(徳島県自然災害誌より)  
(数字は南部地域のみ)



### ■ 切迫する南海トラフ巨大地震

#### <被害想定>

- ・死者：10,660人
- ・避難者：61,600人
- ・建物全壊：26,190棟
- ・孤立集落：72集落  
(数字は南部地域のみ)

### ■ 頻発する風水害・土砂災害による被害（南部地域）

- 平成26年（台風12号・11号）
  - ・全壊：5棟 半壊：160棟
  - ・床上浸水：448棟 床下浸水：1,277棟
- 平成27年（台風11号）
  - ・半壊：1棟 一部破損：17棟
  - ・床上浸水：55棟 床下浸水：91棟
- 平成27年（大雨洪水警報(9/24)）
  - ・床上浸水：4棟 床下浸水：40棟



「過去から学び、未来に備える」

### ■ 「みんなで防災・みんなで減災」の推進

- ワークショップや自衛隊等と連携したサバイバルキャンプの実施
- 学生災害予防ボランティア隊による地域の防災活動への参画
- 地震・津波や風水害などに関する出前講座の実施



### ■ 新昭和南海地震70年事業

- 過去から学び未来に備える昭和南海地震70年フォーラムの開催
- 南部地域の津波碑や防災施設を巡る津波減災フィールドワークの実施
- 南部地域の小・中・高校生を対象とした地震津波防災ポスターコンクールの実施



### ■ 「しなやかな防災体制」の構築

- 自衛隊ヘリを活用した、孤立地域における傷病者救出訓練の実施
- 自主防災会や事業者などが実施する津波避難訓練の支援
- 県や市町など防災関係機関相互のスムーズで正確な情報連絡体制の強化



### ■ 新災害時における安全安心な子育て環境の推進

- 地域の子育て関係職員を対象とした研修会の開催
- 災害時に子育て世代等を支援する地域住民への啓発及び支援
- 市町と連携した子育て世代等への災害に備えた取組みの啓発



南部地域の防災力強化

地方創生の基礎となる南部地域住民の安全・安心な暮らしの確保



担当：津波減災部・保健福祉環境部

関係各位

徳島県南部総合県民局長  
(公印省略)

平成28年度南部圏域災害時母子支援研修会の開催について(通知)

日頃は、保健衛生行政の推進に格別の御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。  
徳島県南部総合県民局では、南海トラフ巨大地震に備えた体制づくりとして、災害時における健康に配慮した避難所運営や取り組みの啓発に努めているところで

す。  
この度、南部圏域における災害時の母子支援についての研修会を、医療・防災・地域保健関係者等を対象として次のとおり実施することとなりました。

つきましては、お忙しいところ恐れ入りますが、関係団体への周知及び貴施設関係職員の出席について御配慮くださいますよう、よろしく願いいたします。

なお、準備の都合がございますので、7月12日(火)までに別紙様式により、ファクシミリにてお申し込みくださいますよう、お願いいたします。

- 1 日時 平成28年7月31日(日) 午後1時30分から午後4時まで
- 2 場所 徳島県南部総合県民局保健福祉環境部<阿南保健所> 2階大会議室  
(住所：徳島県阿南市領家町野神319番地)
- 3 内容
  - (1)講義「災害時における母子支援について、地域で取り組むべきこと」  
～関係者で守る妊産婦・乳幼児のより良い避難所生活～  
講師：国立保健医療科学院 生涯健康研究部主任研究官 吉田穂波氏(産科医)
  - (2)シミュレーション演習
  - (3)振り返り・質疑応答
- 4 対象  
助産師・看護師等医療関係者、市町保健師、市町防災担当・障がい福祉担当職員、助産師会、看護師養成校(学生含む)、保育士、自主防災会 等

<問い合わせ先>

南部総合県民局保健福祉環境部<阿南>  
防災・企画医療担当 徳永  
電話0884-28-9867